



創立40周年記念公演シリーズ

いよいよ**ファイナル**です!!

第79回 定期演奏会

2017年12月17日(日)14:00開演
厚木市文化会館 大ホール

ベルリオーズ「幻想交響曲」
モーツァルト、マドセン
「ホルン協奏曲」ほか

指揮：田久保 裕一
独奏：今井 仁志



月日の経つのは早いもので、暦の上ではもう「立冬」を過ぎてしまいました。

この一年厚木交響楽団創立40周年を記念し、3回の演奏会を企画し取り組んで参りましたが、いよいよ来月その最終回を迎えます。駆け足で走り抜けてきたような慌ただしい日々ではありましたが、それでも「ブルックナー8番」を練習していた頃がずっと昔に感じられるような、不思議な感覚にもとられます。久々に千人を越えるお客様をお迎えした9月の演奏会の感激は、まだ記憶に新しいところではありますが。

さて、そこで「エクトール・ベルリオーズ」...

ベートーヴェンのほんの少し後に現れた作曲家ですが、その個性豊かで自由奔放、独創的な「幻想」にただ今すっかり翻弄されている私達です。でも、ご安心を!頼もしいコンダクターがしっかりと導いてくれる手はずになっています。

田久保裕一先生とはもう10年以上のお付き合いになります。2005年1月、初めて私達の練習場に姿を現された時はちょっとした衝撃でした。スリムな黒い革のパンツを身に着け、それまでの指揮者のイメージを覆すような出で立ち。厚響に新しい風が吹いた瞬間でした。その開放的なお人柄と本番での熱い指揮は大変魅力的で、以後今日に至るまで数々の本番をご一緒させていただくこととなったのです。

というわけで、メモリアルイヤー最後を飾る友の会インタビューは、田久保裕一先生のご登場です!

指揮者

田久保 裕一先生にインタビュー!!!



◎先生が初めて厚響を振られたのは2005年4月の第52回定期(カリンニコフ1番)でしたが、それに先立って初めて練習に来られた時(2005年1月初め)の当団の印象はいかがでしたか?



セセッション(ウィーン分離派会館)

天野先生の印象がとても強く... (笑)ご存知の通り強烈なキャラだしね。先生の髪型?僕は「セセッション」だと思いましたよ、「金のキャベツ」!! それと西尾さんの子だくさんにびっくりしました。ソロソロ連れて来ていたでしょ。オケには、とても活気を感じましたね。とても前向きでフレンドリーで、やりやすいオケだと思いました。それは今も変わらない。ただ、みんな歳とったけどね(笑)。

◎どうもありがとうございます(笑)。先生こそ、前向きでフレンドリーだと私達は感じましたよ!先生にはそれ以降今年初めのニューイヤーコンサートまで、12年間で8回(同じプログラムで2回公演もあり実質10回)もの演奏会に関わっていただいたわけですが、振り返ってみていかがですか?私達にとっては特別な意味合いの演奏会が多く、また「ヴェルレク」や「ニューイヤーコンサート」など、普段の演奏会とは違う貴重な体験もさせていただきました。

とにかく「よくやるな」という印象ですね。「シェヘラザード」「展覧会」「ブルックナー」「マーラー」これプラスオペラもやってるし、皆さん本当によく活動しているね。すごい精力的に活動しているという印象です、ずっと今でも!

◎先生はよく団員の名前を覚えていらっしゃるよ、それは素晴らしい事だと思いますよ。

元教師というのがあるかもしれないね。自分もオケマンだったから、「オーボエ1番!」と呼ばれるより名前と呼ばれた方が気分がよいものね。特に管の人には座席表のような名簿を出してもらうんです。

田久保先生指揮の演奏会・・・・・・・・

- 1) 2005年4月24日
第52回定期演奏会 カリニコフ1番他
- 2) 2008年4月13日 (創立30周年記念)
第59回定期演奏会 ホルスト「惑星」他
- 3) 2008年9月20日
天野先生70th.アニバーサリー プラームス1番
- 4) 2010年3月22日
第63回定期演奏会「シェヘラザード」他
- 5) 2012年4月30日 (東日本大震災のため1年延期)
第66回定期演奏会 ブルックナー5番他
- 6) 2013年10月13、20日
ヴェルディ「レクイエム」(葛飾/厚木)
- 7) 2015年9月6日 (天野先生喜寿お祝い)
第73回定期演奏会 マラー「巨人」他
- 8) 2017年1月14、15日
ニューイヤースペシャルコンサート
(大和/海老名)

●私達は合奏練習中に私語が多いと注意されることもあるのですが・・・
初めの音合わせのときからうるさいとされています。

それはある。チューニング中はしゃべっちゃだめだよ。「チューニング中のおしゃべりは無くしましょう!」ただ、弦のボウイングがどうのこうのというのは私語とは思わない。それに、こう吹きたい、こう弾きたいというのをもっと練習中に言ってほしいと僕は思う。休憩時間に質問を受けることはよくあるけど、それを練習中に言ってもらっても構わないのです。気になることがあったらそこで解決すべき。本当に必要なことだったらしゃべり終わるまで僕は待っていますから。

●ではここからは先生ご自身のことについて少し伺います。小学生の頃からずっと、学校教育の場でオーケストラを経験し、中学、高校と関わってこれたということですが?

それまでもピアノを習ったりしていたのですが、小4から入った器楽クラブで音楽の楽しさに目覚めました。千葉県では学校にオーケストラ部があるのは珍しい事ではなく、以後中学、高校とオケ部ざんまい。チェロを弾く傍ら自己流ですが指揮もやるようになり、高校の時には自分の学校のオケに加えて小学校の器楽クラブOBオケ、地元のアマオケと3つも掛け持ちしていました。大学でもその生活は続きました。

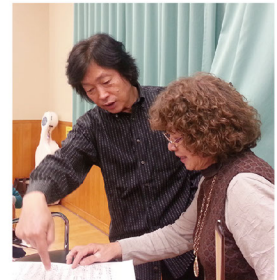
●その後は学校教育の現場で教鞭をとっておられたのが、30代半ばでプロ指揮者を志すことになるのですね?

学校の仕事とアマオケ活動の二足のわらじを履いていましたが、なにしろ時間が足りない。自分の勉強不足を感じてはいましたが、どうしようもなかった。30歳の頃、ために受けた東京での指揮者コンクールでファイナリストに入った。これを契機にきちんと指揮を習うようになり、35歳の時に教師を辞めて本腰を入れる決断をしました。

●現在、全国各地のプロ・アマチュアオケへの客演指揮のみならず、学校の先生方を対象とした指揮法講習会やブラスバンドや合唱団の指導、コンクールの審査員、学校への出張コンサート等、たいへん手広く様々な音楽活動に関わっておられ、超多忙な毎日を送っていらっしゃると思います。還暦(失礼!)を迎えてもなお、ますます精力的に全国を駆け巡っておられるそのフットワークの軽さ、活動のエネルギーの源は何なのでしょうか?

何なのでしょうね。とにかく旅が好きで、人が好き!いろんな人に会いたい!常に好奇心の塊です。大学オケで若い人との触れ合いも有り、気持ちがいつも若いですね。めったに疲れたとは言わないし、疲れたとも思わない。疲れたと思う間にまた次の事があるので、ずっと走ってるね!

●以前から海外で現地のオケを振られることもたびたびあったそうですが、ここ数年はほぼ毎年のように、日本からアマチュアオーケストラや合唱団を率いてウィーンやニューヨークで演奏会をもち、大喝采を浴びていらっしゃいます。特に、2013年にはシュテファン大聖堂にてモーツァルトの祥月命日に毎年行われる「レクイエム」の演奏会に招かれ、日本からのメンバーと共に演奏を捧げるという稀有な体験をされました。



2010年ムジークフェラインでのリハーサル

12月5日深夜0時からシュテファン大聖堂で行われ、演奏後真っ暗な堂内を退場するのですが、有り難く敬虔な気持ちで一杯になり思わず涙が出ました。モーツァルトが降りて来そうな感じでした。同じウィーンのムジークフェラインでの演奏会ですが、昨年マラーの「巨人」を演奏した時は割と冷静だったのですが、2010年に「第九」を振ったときは初めてという事もあり、リハーサルのときからまるで夢の中にいるような、自分じゃないような気がしましたね。聴く側としては何度も経験していたのですが、演奏する側に立つとその響きの素晴らしさがどんなホールとも全然違いました。

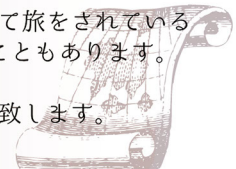
●来年はいよいよベルリンフィルの本拠地、ベルリンのフィルハーモニーホールでの演奏会も予定されていますね。まだまだ先生の夢が大きく膨らみそうです。さて、話が大きく飛躍しておりますが、またここ厚木に話を戻します。今度の演奏会で演奏する幻想交響曲の魅力についてひとことお願いします。

アマオケなら一度はやってみたい曲ですよ(厚響では第25、50回定期で演奏)。ベートーヴェンとさほど変わらない時代、シューベルトと同時代の人なのに、アイデアがすごいです。この曲でも、ティンパニを4人でやらせたり、オーボエを舞台裏で鳴らせる、鐘を使うなどしています。ベートーヴェンも第九では合唱を入れたりしていますが、とにかくベルリオーズは奇才というか、才能に溢れていて突拍子もないことをやるのです。「幻想交響曲」という標題がついているのも珍しい。楽章ごとに標題のシーンをイメージしながら聴いてほしいですね。

いつでも好奇心のアンテナを全開にして、今日も千葉のご自宅から次の目的地に向かって旅をされているだろう先生。ときにはオケ全体が静まり返ってしまう位 厳しい言葉を投げかけられることもあります。それでも、これからますます私達と先生とのご縁は続いてゆくでしょう。

田久保先生、大変にお忙しい中、どうもありがとうございました。本番よろしくお願ひ致します。

☆田久保先生のプロフィールは、同封のチラシをご覧ください。



第78回 定期演奏会 (2017,9,18)



1000人以上のお客様を
お迎えして、
盛り上がりました！



楽屋の前でチーム
ビオラとマエストロ



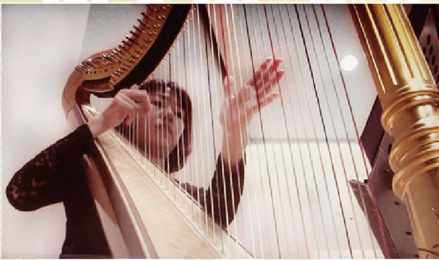
長谷川先生の艶やかな音色！



コンチェルト終了してハグ!! の両先生



ボレロを支えるリズムはここから…



珍しいアングルからのハープ 奥田さん



インタビューに登場の二人、今がその時！



ボレロが終わってホルン嬢、安堵の笑顔



テナーとソプラノ、サクソコンビのお二人



そして忘れてならないこの方、
真郁先生！



スネアドラムの彼女に「ブラブオー！」



本日は御来場 誠にありがとうございました！



笑顔の打ち上げ！木管+ホルンと両先生

神崎団長が語る

厚木交響楽団 40年の歩み

PartIII：団創立30年から
40年までの歩み

❁ オペラ公演の実現！

「いつかはオペラを！」と演奏会のプログラムの「団長挨拶」に度々書いて参りましたが、その念願の夢が現実となりオペラ公演に参加することになったのは、2008年7月13日の創立30周年記念シリーズII第60回定期演奏会で指揮をして下さった大浦智弘先生と、その時に共演して下さいました大久保眞先生(杉並区民オペラ主宰)との出会いによるものでした。

翌年の2009年4月19日の第61回定期演奏会では、大浦先生のご紹介でオペラリリカ八王子の皆様とヴェルディの歌劇「イル・トロヴァトーレ」の抜粋版で共演させていただき、7月5日には八王子市民会館ホールにて「イル・トロヴァトーレ全4幕」を共演し、厚木交響楽団として初めてオペラの全曲演奏を経験することが出来ました。



オペラ公演のプログラム

その後、杉並区民オペラを主宰する大久保先生よりお話を頂き、5年間にわたり毎年ご一緒させて頂く事が決まりました。こうしてオーケストラだけの力では実現できないオペラ公演への夢を実現させることが出来ました。創立30周年の年はオペラとの出会いの年だったと思います。

またその年に、指揮者長野力哉先生との出会いもありました。長野先生の深く情熱溢れる音楽に団員の心は魅了されました。それ以来、度々演奏会の指揮を御願ひしています。

翌2010年からはオペラ公演が加わったこともあり、厚木交響楽団の年間スケジュールもより多彩になってきました。初めての杉並区民オペラとの共演は、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」とレオンカヴァッロ「道化師」で指揮は柴田真郁先生でした。音楽への情熱が熱く、オペラの物語に添う演奏を細かく丁寧に指導下さり、オーケストラの膨大な楽譜の量にオペラ演奏の大変さを実感しましたが、とても勉強になりました。7月24、25日の二日にわたる本番では、緊張しつつも物語と一体となって演奏する醍醐味を初めて経験致しました。

❁ 新しい先生方との出会い

その年の10月24日、第64回定期演奏会には柴田先生の奥様でピアニストの菊池珠里氏とグリーグのピアノ協奏曲を共演させて頂きました。指揮は松村秀明先生でした。松村先生との出会いも大変幸せなご縁でした。若い貴公子のような先生で、大変真面目で丁寧に指導して下さいました。この2010年にイタリアで開催された第11回アントニオ・ベドロッチ国際指揮者コンクールで第3位に入賞され、高い評価を得て活躍の場を広げていらっしゃいますが、当団ともその後も快く共演して下さいました。

翌2011年3月14日には、あの東日本大震災が発生しました。当団でも4月に予定していた第65回定期演奏会を延期しました。そして10月23日には被災地の皆様にも少しでもお役に立ちたいと厚木市南毛利公民館にて「東日本大震災チャリティコンサート」を開催しました。多くの皆様に募金をいただき、団員の募金と合わせて日本赤十字社を通して被災地へお送りしました。翌2012年4月30日の第66回定期演奏会にて、大震災で延期となった演奏会を実施することが出来ました。



菊池珠里氏

10月14日第67回定期演奏会は久しぶりに厚木市文化会館で松村秀明先生の指揮で開催致しましたが、その演奏会に向けての合宿で指導頂いた稲垣雅之先生との出会いも貴重なご縁でした。稲垣先生は、大変緻密で丹念に私達をご指導下さる先生で、辛抱強く何度も繰り返し私達が納得できるまでお付き合い下さいます。その後もずっとご指導頂いていますが、稲垣先生のお陰で当団の技量にもさらに磨きがかかったと申し上げても過言ではないと思っています。

❁ 多彩な演奏活動

2013年の秋の演奏会は田久保裕一先生から「ヴェルディのレクイエムを歌う会」と一緒にやらないかとお話を頂き、10月13日には東京のかつしかシンフォニーヒルズで、20日には厚木市文化会館で第69回定期演奏会として2週続けてヴェルディの「レクイエム」の演奏会をしました。丁度ヴェルディ生誕200周年記念の年でした。

翌2014年7月19、20日は杉並区民オペラさんとの最後の共演となりました。「愛の妙薬」「カルメン」「椿姫」と続き5回目はあの壮大なヴェルディのオペラ「アイダ」で、指揮は柴田真郁先生でした。すっかりオペラが好きになった団員も多く、オペラの演奏を通してオーケストラとして大いに成長できた5年間だったと思います。私達アマチュアのオーケストラにとってオペラを毎年演奏出来た事は本当に貴重な経験であったと大変感謝致しております。



ヴェルディ「レクイエム」葛飾公演

2015年9月6日の第73回定期演奏会は厚木交響楽団にとって特別な演奏会でした。我が団のコンサートミストレス天野克子さんの喜寿のお祝いを意識した演奏会で、長野力哉先生と田久保裕一先生のお二人がお祝いに前半と後半に分かれて指揮をして下さり、ヴァイオリン・ヴィオラ奏者としてご活躍の阿部真也氏が天野克子さんと共にモーツァルトの「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」を共演して下さいました。公演終了後にはホテルで喜寿をお祝いするパーティを開き、皆でお祝いすることが出来ました。天野克子さんが情熱を持ってエネルギーギッシュにコンサートミストレスとして、また団の仲間として共に歩いて来て下さったことは厚木交響楽団が創立40周年を迎えることができた大きな要因の一つであると確信しています。益々お元氣な御活躍を願うばかりです。

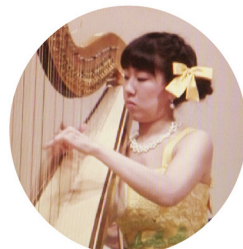
そして、これから…

この10年、多くの方々のご協力を得て厚木交響楽団は多彩な演奏会を開催することが出来ました。ソリストとしては先に登場の菊池珠里氏、阿部真也氏、太田一也氏(名古屋フィルハーモニー首席チェロ奏者)、ハープの奥田恭子氏、そしてヴァイオリニストの木野雅之氏(日本フィルハーモニーのソロコンサートマスター)トロンボーンの郡恭一郎氏(シエナウィンドウオーケストラ)、トランペットの長谷川潤氏(読売日本交響楽団首席奏者)そして今回、ホルンの今井仁志氏(NHK 交響楽団首席奏者)です。皆様の素晴らしい演奏と温かいお人柄に触れ、沢山勉強させて頂きました。

また2017年1月14日、15日に大和市にお住まいのバリトン歌手の催宗宝氏が主催された大和と海老名の両文化会館でのニューイヤーコンサートへの参加も貴重な経験となりました。

こうして過ごしているうちに私達はあっという間に今年、創立40周年記念の年を迎えています。振り返ってみると本当に多くの方々との出会いがあり、沢山のご協力を得ることができ、前に向かって歩き続けることの出来た幸せな40年間であったと思います。厚木交響楽団とのご縁を紡いで下さった全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。これからも演奏の基礎であるアンサンブルの向上を目指し、音楽と真摯に向かい合い努力をし続けられるオーケストラとして、また聴衆の皆様にお楽しみ頂けるオーケストラとして成長し続け、今後50周年、60周年・100周年と益々発展していけることを願っております。今後とも、どうぞよろしく御願い致します。

厚木交響楽団団長 神崎和夫



奥田恭子氏



太田一也氏



次の新たな10年に向かって…

今後の演奏会 予定

●第80回 定期演奏会

2018年4月22日(日) 14:00 開演
会場/厚木市文化会館 大ホール

指揮/道端 大輝
チャイコフスキー 幻想序曲「ロメオとジュリエット」
プロコフィエフ 交響曲第1番「古典」
チャイコフスキー 交響曲第6番「悲愴」

●第81回 定期演奏会

2018年9月9日(日) 14:00 開演(予定)
会場/厚木市文化会館 大ホール

指揮/長野 力哉
ワーグナー 「タンホイザー」序曲
ワーグナー 「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と愛の死
ブラームス 交響曲第4番

インペク【にしお】
の
つぶやき

第3回



台風の日に思う、震災の日のこと・・・1

2011年3月11日の震災以降、自然現象への警戒報道がやたらと私たちの恐怖心をあおっている気がするのはいけいでしょうか？特に台風や大雨の気象現象に対して「50年に一度の激しい雨」とか「不要不急の用事がなければ外出は控えましょう」といったコメントがニュースやワイドショーのキャスターから絶え間なく発せられます。甚だ不謹慎だとしかりを受けるかも知れませんが、騒ぎすぎではないか？とっと思っ

さて、あの震災の日・・・数多くの芝居やミュージカルの公演中に大きな揺れがあって公演中止になるだけでなく、交通機関がストップして帰宅の足を失った観客や都内で働く人のために、商業演劇の劇場はじめ数多くの公共の施設が緊急避難所として開放されました。私も都内の職場に一晚泊りましたが、あの震災の夜、あるオーケストラのコンサートが開催されていたことはご存知でしょうか？

D・ハーディング指揮/新日本フィルハーモニーのコンサートがすみだトリフォニーホールで行われました。この日のチケットは完売でしたが、夜になっても交通機関がストップしていたため、開演に間に合った聴衆は徒歩などで辿り着いた数十人。最終的な来場数は、舞台上のオーケストラとほとんど変わらない100人程度だったとのこと。誰もが、経験したことのないような大災害の当日に、演奏を行ったことに対する批判は少なくなかったことでしょう。また、このような事態の中で演奏会に行ったことを他の人に言えなかった聴衆もいたでしょうし、オケのメンバーの中にだって家族や親戚がもしかしたら震災や津波の被害にあっているのでは？という心配をしながら演奏した方もいたことでしょう。ハーディング氏は、社会が危機や混乱にある時の芸術の価値について、「あらゆる芸術は、人々が自分の感情や状況を理解する助けになる。そしてまた、自分が一人ではないということ、を、再認識させてくれる。これらはとても重要なことなのではないかと思う。つまり芸術とは、その場限りのエンタテインメントというくりには収まりきれない豊かなものを与えてくれるはずなのだ」と、語っています。当日のメインプログラムはマーラーの交響曲第5番。終楽章の高らかな勝利を思わせる力強い響きは、かつてない不安・困難に直面した私たちへの「希望をもって前を見よ！」というハーディング氏からのメッセージだったのかもしれない。

台風の日に思う、震災の日のこと・・・2

2011年の震災直後の電源不安は私たちの生活のなかで「計画停電」の名のもと色々と不便なことが起りました。日中突然電源が落ちることが数日に一度ありました。

我々のホームグラウンドでもある「厚木市文化会館」も耐震安全性の確認と計画停電の影響から数か月貸館禁止措置が取られました。厚響も本番まで一か月前となっていた定期演奏会(田久保裕一先生指揮、ブルックナーの交響曲第5番をメインにした演奏会)を中止せざるを得ない状況となりました。その後、元々予定されていたホール改修などもあり私達は2012年10月まで2年もの間、地元「厚木市文化会館」で演奏会を開けないということになってしまったのです。元々予定されていた演奏会のためのホールだけではなく、私たちが普段リハーサルで利用している各施設も夜間の使用制限でリハーサル時間の変更や短縮を余儀なくされ、その後も照明が減らされ(実際に一部の施設では現在も電球や蛍光灯を抜いています)たいへん不便な思いをしましたが、だんだんと環境は良い方向に安定していき、中止となってしまった演奏会は、ちょうど1年後の2012年4月に相模大野グリーンホール(現:相模女子大グリーンホール)にて実現しました。

私たちのアマオケ活動はリハーサルも本番も、公共の施設の使用など自治体の協力なしには成立いたしません。安定して活動していくためには、社会的環境が安定していることが第一です。今年10月にたて続けにやってきた二つの大きな台風による暴風雨の音を聞きながら、「これからリハーサルの向うのはちょっと大変だけど、いつもと変わりなくオケができて幸せだなあ」と、ふと思いました。私達を支えて下さる皆様に心より感謝申し上げます。

事務局より

- いよいよ今年度最後の演奏会となります第79回定期演奏会のご招待券をお送りいたします。今回インタビューにご登場いただいた田久保先生の「幻想交響曲」で40周年メモリアルイヤーを華やかに締めくりたいと、団員一同練習に励んでおります。そのあとすでにお知らせしておりますように、レンブラントホテルにて記念パーティがございます。お申し込みの締め切りは今月30日ですから、まだまだ間に合います。どうか今からでも参加をご検討いただけますようお願い申し上げます。この機会にいつも支えて下さる皆様と楽しく交流できたらと願っております。
- この40年、創団初期から厚響を支えてきたメンバーをはじめとして、団員全体にも緩やかに高齢化の兆しが見え始めておりますが(笑)、少しづつ若いメンバーの加入もあります。今年は団内で巡り合った一組のカップルに女の子が誕生し、別の新たな一組も家庭を築き始めました。次の新しい10年に繋げるためにも、若い世代に期待したい！来年は団の役員改選もあります。名実ともに新しい厚響のスタートの年となるかもしれません。
- 平成29年度の会員期間は2018年3月31日までです。年が明けましたらまた継続のご案内をお送りいたしますので、ぜひ引き続き「厚木交響楽団友の会」をよろしくお願い申し上げます。

(事務局 岡田史子)

